

IAESTE internship in Macau

国際開発工学科 4年

花岡研究室所属

祖田真志

1. はじめに

私は今回、IAESTEというインターンシップ派遣交換を支援している団体を通して、マカオにある Civil Engineering Consultants Co. Limited という建設コンサルタント関連の会社に6月17日～7月28日までの約6週間インターンを行いました。この会社は毎年この団体からインターンを志望する学生を受け付けているようで、今年で3年目ということでした。

私自身のインターンの内容に入る前に、簡単にマカオについて紹介させていただきます。マカオは中国の中の一地域ということなのですが、特別行政区として独立しています。中国内でいうと、香港、台湾が同じ立ち位置になります。近年まで、ポルトガル領であったこともあり、公用語は中国語、ポルトガルとなっています。町並みもヨーロッパ風の建物が集まる地区があり、節々にその歴史的背景をうかがいすることができます。さらに、カジノの売上はラスベガスを超えて、世界一であり、世界遺産なども多くあることから観光地としても有名です。

また、マカオは世田谷区ほどの大きさしかなく、人口密度は世界の国、地域のなかで一番高いという状況です。その影響で、高層マンションが乱立しており、マカオはいまなお、埋め立てにより土地を拡大し、ホテル、カジノ、マンションを建設する計画がいくつもあがっています。

私は今回、この会社にインターンシップに参加した経緯として、国際開発工学科内の講義でプロジェクトマネジメントを扱うものがあり、それに興味をひかれました。そのマネジメントが実際どの様に行われているのかというのをこのインターンシップを通して体験し、実際にマネジメントスキルを少しでも身につけることを目的としました。

2. インターンシップ内容



写真1. マカオ全体図



写真2. プロジェクト概観図

2.1 会社について

この会社は写真2においてカラ一部分の地区の再開発のプロジェクトにかかわっていました。具体的には、今現在この地区にはホテル、ショッピングモール、博物館、ジェットコースターが中にある擬似火山などがあり、様々な施設が集まっており、観光客の集客を見込んでいたのですが、利益があまり得ることができないということで、これらの施設を解体し新しくホテル、カジノ、恐竜博物館を建設するというものです。全部で、ホテル3件、博物館一つの建設、現存している建築物（擬似火山、博物館）の解体という大きく分けて6つのプロジェクトが進められていました。

そのプロジェクトの中で、この会社の役割というのは、このプロジェクトの依頼主からプロジェクトの運営、管理を任せられ、建築、解体プロジェクトの指揮をとるというものです。実際には各プロジェクトに対して必要なコンサルタント（ホテルの建設ならば、デザイン、電気設備関連など）、建築会社を集め、そのような会社、コンサルタントを管理するというものでした。

2.2 スケジュール

実際のインターンシップのスケジュールは以下の図のようになります。

| 仕事概要 | 期間 | 担当者 |
|--|-----------|-------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">各プロジェクトの現状把握、これからの計画を理解する各プロジェクトの関係者、組織図を理解する | 6/17～6/22 | <u>Mun, Boris, Meila, Chi leong</u> |
| <ul style="list-style-type: none">現存している建築物の解体プロジェクト、ホテル建設プロジェクトへの参加 | 6/24～7/12 | Pedro, Mandy, Edmond |
| <ul style="list-style-type: none">ホテル建設プロジェクトへの参加実際に現場に行って視察 | 7/14～7/27 | <u>Xei Hong, Katrina</u> |

図1. スケジュール

このインターンシップでは、先ほど述べたプロジェクトの中で、解体プロジェクト、一つのホテルの建設プロジェクトに参加しました。最初の1週間は、各プロジェクトの進行具合を把握し、それぞれどのようなコンサルタント、建設会社がかかわっているかの確認を会社が持っている月ごとの報告書、各プロジェクトのマスタープランを参考

にするなどしておこないました。

2.3 仕事概要

ここでは、私が参加した2つのプロジェクトに関してどのような関わり方をしたのか説明したいと思います。

2.3.1 解体プロジェクト



写真3. 解体プロジェクト

この解体プロジェクトは写真3にあるような博物館、火山をモチーフにした建築物の解体プロジェクトになります。私がこのプロジェクトに参加した時には、解体工程はほぼ決まっていたのですが、解体後のがれき輸送計画については未定という状況だったので、その計画立案を主に担当しました。実際には、この解体の実施は8月1日から始まる予定であったのですが、その解体を実施している期間中にも、隣接している資料館、ショッピングモール（下段写真赤丸の右側地区）は営業をやめないということで、解体工事として使える範囲も限られていました。その中で、この敷地内での土地利用（具体的にはどの範囲を通常通り来客用の駐車スペース、輸送用トラックスペースとして割り当てるかなど）やその割り当てをもとに輸送用車両の同時進入制限、またこの地区の前の道路の渋滞状況を避けるよう反映させた輸送車両のタイムテーブルの作成を行いました。

た。

2.3.2 ホテル建設プロジェクト

このホテル建設プロジェクトは上述の解体後の土地に建てるホテル建設プロジェクトになります。進行状況としては、このプロジェクトを依頼したクライアントへの承認、建設の耐性基準などの規制を満たしているか検査するための公的機関への図案提出をしなければならないというところでした。

私に関与したこととしては、このプロジェクトのプロジェクトマネジャーの主にサポートが仕事でした。各ミーティングの手配、参加、ミーティングの議事録提出、タイムマネジメントのサポートというものになります。



写真 4. プロジェクトマネージャー

プロジェクトマネジメント（写真左）からはインターンシップを通して、プロジェクトマネジャーの立ち位置というものから、ミーティングでの立ち居振る舞いまで含めて、講義などを通しては学びにくいところを教えていただきました。

3. 最後に

今回のインターンシップは、私にとって新しい経験ばかりで、仕事のことのみならず普段の生活に関しても、貴重な体験となりました。まず、旅行以外でこのような長期間海外の国で、暮らすということ自体初めての経験でありました。もちろん、海外の会社

でインターンとして働くということもはじめての経験でした。

このインターンシップを始める前に、個人で、プロジェクトマネジメントがどのように行われており、そのスキルを学ぶという目的を立てたということのはじめに述べました。実際にプロジェクトマネジメントがどのようにおこなわれているのかというのは学ぶことができましたが、そのスキルを学ぶという面では不十分でした。もちろん短期間であったというのもありますが、建築関連の知識が足りず、私自身が関与できる部分も少なかったことが理由にあると思います。ただし、事前に講義で学んでいたことはこのインターンシップを行う上でも大きな助けとなりました。

また、仕事以外に関しても学んだことは多くありました。このインターンシップは IAESTE という海外インターンシップを支援している団体を通して行ったのですが、マカオには、私と同じように、ヨーロッパの国からインターンシップを行いに来ている学生が多くいました。この期間の滞在中は、このような学生たちと一緒にマカオ大学の学生寮の一緒の部屋に住んで、生活を共にしました。もちろん生活をしていて、文化の違いを感じることは多くありましたが、一番感じたことは日本に関して自分にどれほど知識がなかったかということです。やはり、日本人が日本を見るのと、海外から日本を見るのでは、見方が違っていて、考えたこともない質問をうけることがよくあり（それは歴史的問題も含まれていました）、自分の考え方を改めさせられることが多くありました。そのような体験を含め、このインターンシップは貴重な体験になったと思います。

(以上)